

アジア太平洋地域におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメント会議報告:閣僚宣言の審議を中心に

国連婦人の地位委員会日本代表
十文字中学高等学校校長
橋本ヒロ子

I. 日程：2014年11月17-20日

- 17-18日 上級担当官会議
- 19-20日 閣僚会議

II. 参加国、参加者数

43メンバー国、4地域(associate member)、
4オブザーバー国（カナダ、ドイツ、南ア、
スイス）、その他スウェーデン 合計52カ
国700名 大臣級 20名以上

Ⅲ.議題

- 1. 上級担当官会議開会式
- 2. アジア太平洋地域における北京行動綱領の実施における成果と残っているチャレンジの検討
- 3. アジア太平洋ジェンダー平等と女性のエンパワーメント会議のドラフト成果文書の検討

閣僚会議 4・閣僚会議開会式

5. アジア太平洋地域におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメントを達成するためのチャレンジに対応する前向きな政策および2015年以降の北京行動綱領の実施を促進するための機会になる政策の検討

6. その他

7. 北京行動綱領の進展について20年間の評価を行う第59回国連女性の地位委員会へのアジア太平洋地域からのインプットを含むジェンダー平等と女性のエンパワーメントアジア太平洋閣僚宣言の採択

8. 会議レポートの採択

9. 会議閉会

昼食を兼ねたサイドイベント

- 11月17日 障害を持つ女性
- 11月18日 国際移住
- 11月19日 女性の経済的参加
- 11月20日 ジェンダー平等と女性のエンパワメントに関する女性、平和、安全保障

午後及び夕方のサイドイベント

- 11月17日・太平洋における環境
- ・女性、少女、ジェンダー平等及びHIVに関する縁辺化された女性・少女の健康と人権（12月1日は国際エイズデー）
- 11月18日・ICT、e-government及び女性のエンパワメント
- ・OECD社会組織及びジェンダー指標の発表

本会議の特徴

1. 参加者のランクがハイレベル：ブータンの国母、ツバルの首相、24か国から大臣、副大臣
2. サイドイベント、スペシャルセッションのテーマが多様
3. 閣僚宣言の議論では、一部の国が極めて保守的で、性教育やreproductive health/rightsなどのキーワードに反対したため、2013年に開催された人口開発会議アジア太平洋準備会議で投票で採択した文書よりも後退した。しかし、毎日夜中まで議論が続くCSWに比べて、2日目の会議が2時間延長でまとまったのは、議長（Ms Rozario Manalo:フィリピン, Special Representative of the Philippines to the ASEAN Intergovernmental Commission on Human Rights）の手腕並びに、事務局、一部の国以外の参加国の協力連携があったと推定。
4. 日本政府が提案した災害関係、高齢女性、民間セクターにおける指導的地位の女性の増加、ワークライフバランスの推進などはすでにドラフトに入っており、合意した最終版にも入った。それ以外にも貢献した。

議題3. アジア太平洋ジェンダー平等と女性のエンパワーメント会議のドラフト成果文書・閣僚宣言案の検討18日夜19時まで続いた

- 一部の国が後ろ向きであったが、南太平洋の国々が「北京行動綱領よりも後退すべきではない」と主張したのが特徴的
- 更に、南太平洋諸国は「climate changeの女性への影響」は強く主張
- sexual orientation, gender identity, sexualityが一時入っていたが、削除された。これらは2013年9月アジア太平洋人口開発会議で投票で採決された閣僚宣言に入っている。（反対国：ロシア、イラン、アゼルバイジャン）
- 日本政府が提案した災害関係、高齢女性、民間セクターにおける指導的地位の女性の増加、ワークライフバランスの推進などはすでに草案に入っており、反対国もなし。

- 入っていなかった性教育(昨年9月開催された第6回アジア太平洋人口会議で投票で採択された閣僚宣言で使われたcomprehensive sexuality education)を提案。しかし、1国の恐硬な反対によりCSWで合意したcomprehensive evidence-based education for human sexualityの前にage appropriateをつけて合意。
- 前文の最後のパラにIndigenous peopleの権利に関する国連総会の宣言文（2007年）を入れるべきであると提案したところ、太平洋諸国も強くサポートし独立したパラグラフになった。

- また、「女性と経済」で移住労働者の権利に関する表現が多いため、最後の文章のdiverse groups ofをwomenの前に入れることを提案し合意された。
- 障害を持つ女性の団体などが障害女性に関するインプットを各国にロビイング。その結果、diverse group of (women)が何力所かに入った。

第59回CSW・ポストMDGs に向けて

政治宣言（？）など成果文書到北京行動綱領より後退しない内容を盛り込み、さらにポストMDGsにジェンダー平等の視点を入れるためも、政府と市民社会連携による国際的な動きが必要。

本報告は橋本個人の見解によるものです。